

麦づくり情報 第4号

令和 8 年(2026 年) 3 月 19 日
佐賀県農業試験研究センター
佐賀県米麦改良協会

◎農試作況試験における麦類の生育（3月19日調査）

品種	播種期 (月/日)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 (SPAD)	概況 4) (平年・平均と比較して)
1) シロガネコムギ	11/20	本年	51.9	669	8.6	43.0	[気象] 3月2日～3月18日まで ◆平均気温…0.3℃高い ◆日照時間…長い(平年比118%) ◆降水量…やや少ない (平年比98%) [生育] ◆草丈 「シロガネコムギ」は両作期とも低い。 「サチホゴールド」は12/1播種でやや短く、12/10播種でやや長い。「はるか二条」は12/1播種でやや短く、12/10播種で短い。 ◆茎数 「シロガネコムギ」は11/20播種で平年並み、12/10播種で多い。「サチホゴールド」及び「はるか二条」は12/1播種で少なく、12/10播種で多い。 ◆葉齢 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや少なく、12/1播種でやや多い。「サチホゴールド」は12/1播種でやや多く、12/10播種でやや少ない。「はるか二条」は12/1播種で平年並み、12/10播種でやや少ない。 ◆葉色 「シロガネコムギ」は11/20播種でやや淡く、12/1播種で淡い。「サチホゴールド」は12/1播種で平年並み、12/10播種で淡い。「はるか二条」は両作期とも濃い。 ◆生育ステージ 11/20播種「シロガネコムギ」、12/1播種「サチホゴールド」、「はるか二条」は止葉が抽出展開中である。 (詳細は次頁参照)。
		平年	59.4	676	9.1	43.7	
		平年差(比)	87	99	-0.5	-0.7	
	12/10	本年	39.7	789	8.3	40.3	
2) サチホゴールド	12/1	5ヶ年平均	55.6	1082	9.6	39.6	
		平年	50.1	681	8.0	47.4	
		平年差(比)	79	116	+0.3	-7.1	
	12/10	本年	53.4	1277	8.7	37.5	
3) はるか二条	12/1	5ヶ年平均	54.8	940	9.5	43.1	
		平年	51.3	1017	8.9	41.4	
		平年差(差)	104	126	-0.2	-3.9	
	12/10	本年	51.8	923	9.0	46.1	
12/10	平年	58.3	871	9.3	43.4		
	平年差(差)	89	106	-0.3	+2.7		

留意点	◆ 茎立ちは小麦が平年並み、大麦が平年よりやや早くなっており、出穂期も同様と予測される。
	◆ 赤かび病の防除について 小麦：開花始め～開花期（出穂期の約 7～10 日後）の防除は、発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、開花 10～20 日後頃に 2 回目の防除を行うと DON 低減効果が高まる。 大麦：葎殻抽出期（出穂期の約 2 週間後）の防除は発病抑制だけでなく DON 低減効果が高い。さらに、その 7 日後頃に 2 回目の防除を行うと効果が高まる。
	本病の発生が多いパン用小麦及び食糧用大麦「はるか二条」については、2 回防除を基本とする。
	◆ 大麦において網斑病がみられる場合は、出穂期～穂揃期に薬剤防除を行う。ただし、出穂前においても病斑が上位葉に進展している場合は、直ちに防除を実施する。
	◆ 麦類生産物については、適正なタンパク質含有率の確保が極めて重要であることから、穂揃期追肥を施用し適正化を図る。

注意事項

- 1)「シロガネコムギ」: 苗立数について 11/20 播種は 120 本/㎡、12/10 播種は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 5.5-4.5-4.0 kg。平年値は収量が過去 7 年分の内、収量が最高年と最低年の値を除いた 5 年分の平均。
- 2)「サチホゴールド」: 苗立数は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 6.0-4.0-2.0 kg。平年値について 12/2 播種は試験を開始した R3 年産から 4 年分の平均、12/10 播種は収量が過去 7 年分の内、最高年次と最低年次の値を除いた 5 年分の平均。
- 3)「はるか二条」: 苗立数は 150 本/㎡。施肥量は 10a 当たり窒素成分で 6.0-4.0-4.0 kg。平年値について 12/2 播種は試験を開始した R3 年産から 4 年分の平均、12/10 播種は試験を開始した H30 年産以降の 7 年分の平均。
- 4) 概況欄の平年値との比較については、以下のように定義している。
低い(少ない): 94 以下、やや低い(やや少ない): 95～98、平年並み: 99～101、
やや高い(やや多い): 102～105、高い(多い): 106 以上。

◎本年の生育ステージ

品種	播種期 (月/日)	年次	幼穂形成始期 (月/日)	節間伸長開始期 (月/日)	茎立期 (月/日)	出穂期 (月/日)
シロガネコムギ	11/20	本年	1/27	2/18	2/21	未
		前年	2/3	3/1	3/5	4/7
		平年	1/30	2/18	2/22	3/30
	12/10	本年	2/23	3/4	3/6	未
		前年	3/5	3/17	3/19	4/11
		平年	2/21	3/1	3/4	4/5
サチホゴールド	12/1	本年	2/4	2/25	2/27	未
		前年	2/13	3/12	3/14	4/8
		平年	2/8	2/27	3/5	3/31
	12/10	本年	2/9	2/28	3/3	未
		前年	2/18	3/13	3/16	4/11
		平年	2/11	3/3	3/7	4/3
はるか二条	12/1	本年	2/4	2/24	2/26	未
		前年	2/13	3/8	3/10	4/7
		平年	2/8	2/25	3/3	3/31
	12/10	本年	2/7	2/25	2/27	未
		前年	2/18	3/10	3/12	4/11
		平年	2/9	2/25	3/1	3/31

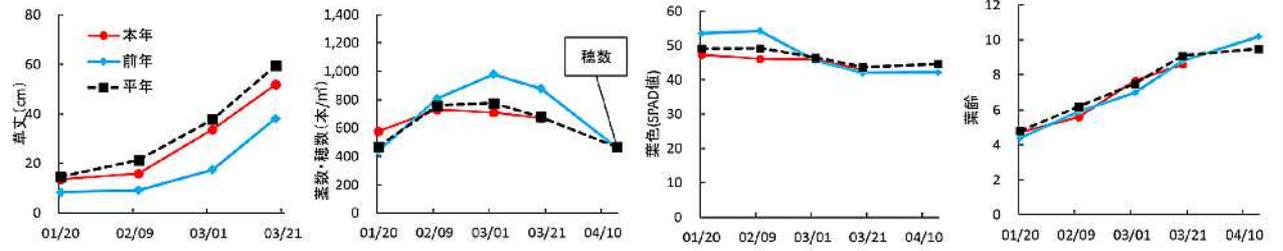
注 1) 平年値の算出方法については前頁を参照。

注 2) 4～5 個体について、1 個体当たり主茎及び生育旺盛な分けつ 2 本の計 3 本を調査。

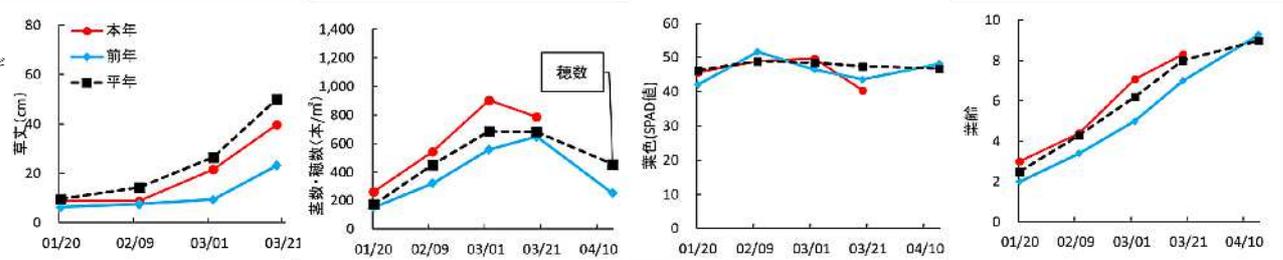
注 3) 幼穂形成始期は 40% 以上の幼穂が 1mm に達した時期、節間伸長開始期は 80% 以上の節間が 5mm に達した時期、茎立ちは主茎の節間が 2 cm に達した時期を記載。

◎生育状況の比較

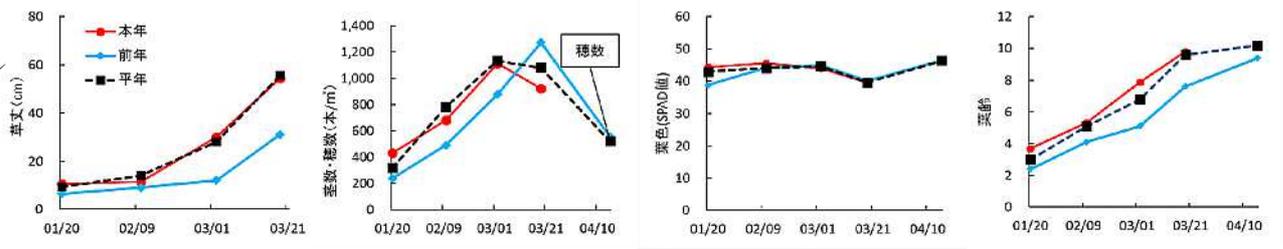
11/20 播種
シロガネコムギ



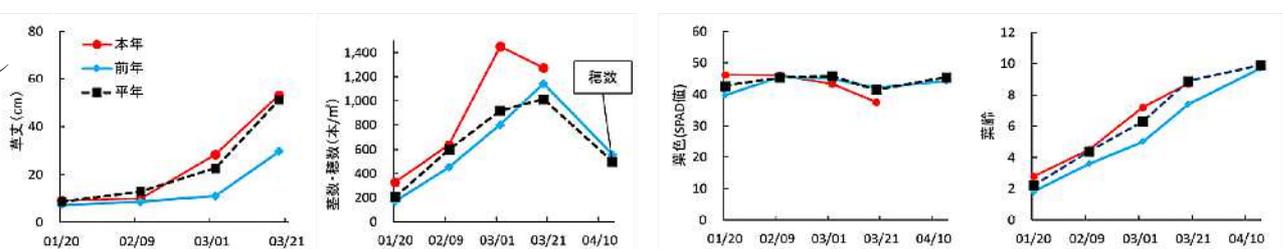
12/10 播種
シロガネコムギ



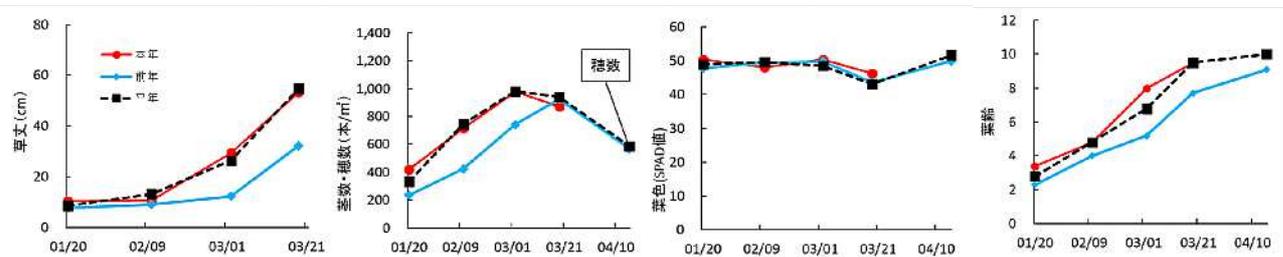
12/1 播種
サチホゴールド



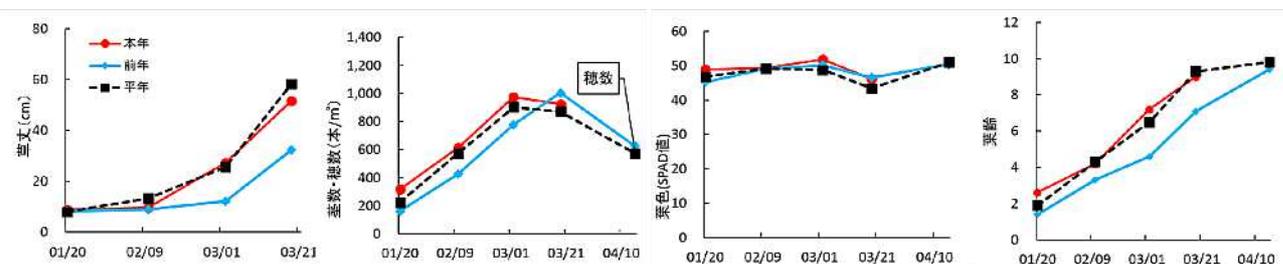
12/10 播種
サチホゴールド



12/1 播種
はるか二条



12/10 播種
はるか二条



○穂揃期追肥について

1. シロガネコムギ(穂揃期追肥)

4月上旬に葉色(SPAD値)が40以下の場合は、子実タンパク質含有率が基準値を満たさない可能性があるため、**穂揃期(4月上中旬)に窒素成分で2kg/10a程度の追肥を施用する。**

※R7年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3より

2. チクゴイズミ(穂揃期追肥)

下記の表を参考に、穂揃期の葉色(SPAD値)、穂数(本/m²)、4~5月の降水量(mm)から、目標とする原麦タンパク含有率を確保するために必要な穂揃期追肥を推定し、施用する。

表 穂揃期葉色と穂数がわかっている場合、原麦タンパク含有率 10%を確保するために必要な穂揃期追肥量(窒素 kg/10a)の目安

SPAD値 \ 穂数	300	400	500	600	700
34	3.5				
36	3.1	4.2			
38	2.8	3.7			
40	2.4	3.2	4.0		
42	2.0	2.7	3.3	4.0	
44	1.6	2.1	2.7	3.2	3.8
46	1.2	1.6	2.1	2.5	2.9

注1) 登熟期間(4~5月)の降水量に、平年値を使用した場合の目安。

2) 網掛けは基準量(2kg/10a)より増肥となる場合。

※R7年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3より

3. はる風ふわり(穂揃期追肥)

パン用小麦に求められる原麦タンパク含有率 12.5%以上を達成するためには、**出穂後3日頃に穂揃期追肥を確実にN5kg/10a施用する。**

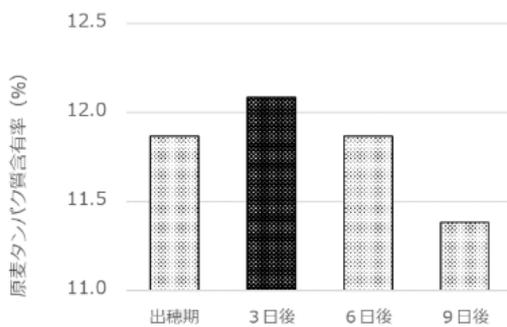


図1 出穂後追肥の施用時期と原麦タンパク含有率(2017年産)。(はる風ふわり)

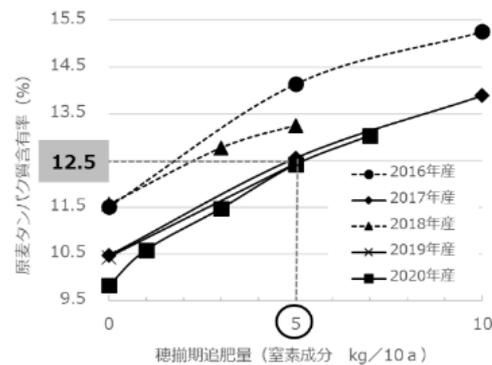


図2 穂揃期追肥量と原麦タンパク含有率(はる風ふわり)。

※R7年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3より

4. さちかおり(穂揃期追肥)

下記の表を参考に、穂揃期の止葉葉身長と葉色(SPAD 値)から、目標とする原麦タンパク含有率を確保するために必要な穂揃期追肥を推定し、施用する。

なお、慣行の基準施肥量において、原麦タンパク質含有率の許容値 10.5%を確保するためには、穂揃期の窒素追肥を少なくとも 6kg/10a 以上施用する必要がある。

表 止葉葉身長×葉色値から推定した穂揃期追肥量の目安

葉身長 ×葉色	必要施肥量(kg/10a)	
	硫安	(窒素成分)
1320	20	4.2
1220	30	6.3
1025	40	8.4
920	50	10.5

注) 葉身長はcm、葉色はSPAD-502PLUS測定値で算出。

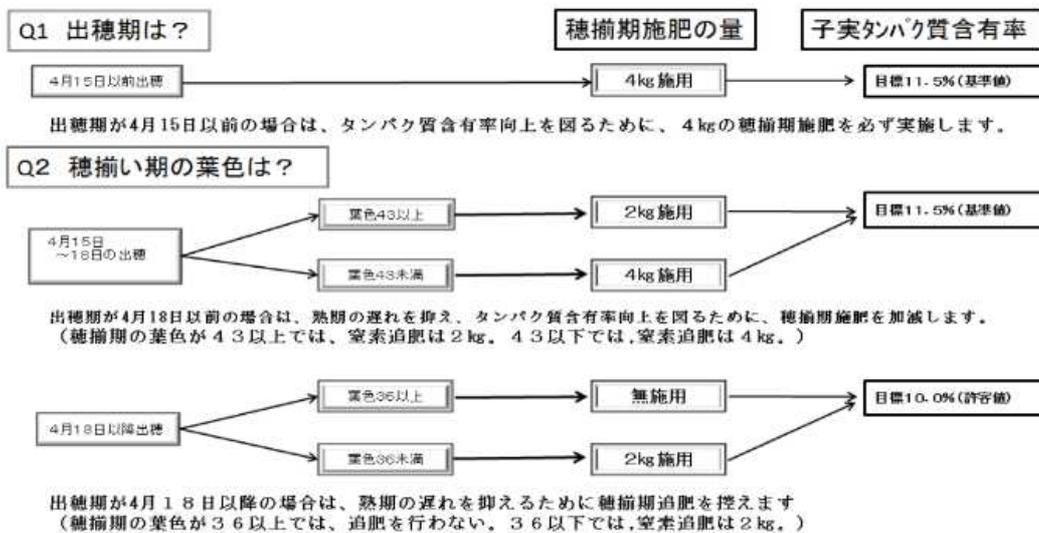
※R7 年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3 より

5. ミナミノカオリ(穂揃期追肥)

下フロー図を参考にして穂揃期追肥を施用する。

「ミナミノカオリ」の穂揃期施肥基準

「ミナミノカオリ」は熟期がやや遅く、穂揃期施肥による熟期の遅れにより雨害を受けやすい。梅雨入りが早まると予想される場合は、以下の基準に沿って、穂揃期施肥を加減することにより原麦タンパク含有率の向上と雨害の軽減を図ってください。



※注 平年の梅雨入り(6月5日)前の収穫に間に合わせるための暫定基準である
葉色については上位2葉のSPADによる測定値。穂揃期の施肥量は10a当たりの窒素成分量である
出穂期が4月15日以降の場合は、雨害回避のために穂揃期施肥の量を決める必要があり、事前に実需者の承諾(報告)を受けておく

※R7 年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3 より

6. サチホゴールド (穂肥(追肥Ⅱ))

下記の表を参考に、2月の降水量と3月上旬の葉色(SPAD値)から、目標とする原麦タンパク含有率を確保するために必要な穂肥(追肥Ⅱ)量を推定し、施用する。

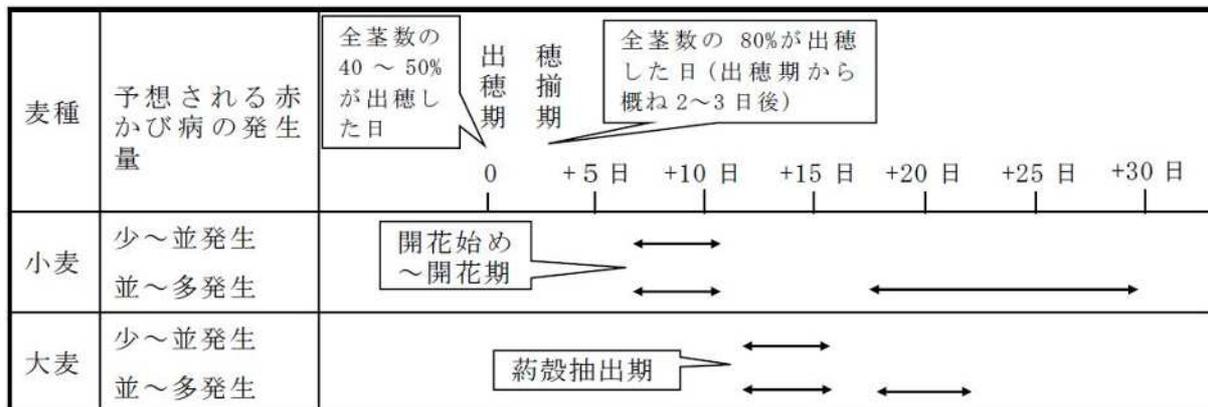
表 ビール大麦「サチホゴールド」の穂肥診断基準(目標子実タンパク質含有率 10.5%の場合)

2月の月間降水量 (平年値: 76mm)	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 (窒素成分/10a)
100mm以上の場合	葉色にかかわらず 原則施用する	3kg*
50mm~100mmの場合	42以下	3kg*
	43~45	3kg
	46以上	2kg
50mm以下の場合	42以下	2kg
	43以上	施用しない

*子実タンパク質含有率向上のためには更に増肥が必要であるが、倒伏防止の観点から、穂肥施用量の最大値は3kgとする。

※R7年度佐賀県施肥・雑草防除のてびき<麦・野菜・花き・飼料作物>P3より

◎赤かび病の防除適期について



注1) 出穂期とは全茎数の40~50%が出穂、穂揃期とは全茎数の80%が出穂した日。

注2) 小麦の開花期とは40~50%の穂が開花した日。

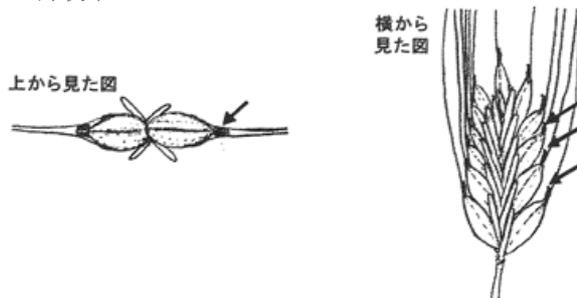
注3) 大麦の薬殻抽出始めとは、50%以上の穂で薬殻が見え始めた日。

注4) 大麦で2回目の防除を行う場合、薬剤の使用法(収穫前日数)に特に注意する。

注5) 矢印は防除適期を示し、農薬は次表を参照とする。

◎大麦の薬殻抽出の模式図

(矢印の部分)



2026年産 麦作期間気象図 アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

